

体験博物館  
千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・技の移り変わりを、当時の環境の中で、お客様が直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30  
 休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）  
 臨時休館日（2016年5月6日）  
 入場料 一般300（240）円 高大150（120）円  
 ※（ ）は20人以上の団体料金  
 ※中学生以下と65歳以上無料。  
 ※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。

瓦版  
大木戸

Kawaraban OKIDO

Vol.56

2016年（平成28年）4月6日

編集・発行  
 千葉県立房総のむら 指定管理者  
 公益財団法人 千葉県教育振興財団 房総のむら  
 〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028  
 TEL.0476-95-3333  
<http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>



「下総の佐倉炭」『諸国名産図会』昭和29年刊行

里山とは、燃料や堆肥、木材や食糧など、生活のために必要な資源を、安定的に常時収集することのできる場所です。それは昔から、人々の生活や収入とも密接につながっており、定期的な伐採と落ち葉拾いなどによって維持管理されてきました。

千葉県は、日本で唯一海拔五〇〇m以上の山地がない都道府県です。現在の主要産業としては、農業・水産業・工業が挙げられますが、江戸時代から明治時代中期にかけては、主に江戸（東京）への薪炭供給地として、林業が盛んに行われていました。特に江戸時代には、幕府や藩の主導で計画

トピックス展  
「里山と林業―千葉の炭焼き―」



的な伐採と植林が行われています。例えば奥南の山間部では、松や杉が積極的に植林され、君津市の小糸川・小櫃川上流域からは、大量の薪が生産出荷されました。

また、炭の中では「佐倉炭」と「久留里炭」が特に有名で、こちらも藩の計画によって植林された松やクヌギが、炭として江戸に送られています。

薪炭は、各藩の財政、また人々にとっての重要な資金源となっていました。特に炭焼きの盛んだった久留里周辺では、昭和二〇～三〇年代まで多くの人が炭を焼き、稲作との兼業生活を送っていました。そして現在も君津市では数名の方が炭焼きを行っており、今回はそのうちの一人、山の斜面に横穴を掘って造った「ムジナ窯」を使用して炭焼きを行っている、菅野氏の炭焼きを記録させて頂きました。



ムジナ窯での炭焼きの様子（君津市）

上手く利用しており、煙突は斜面の途中に作られます。耐火温度が高く、硬く良い炭を作ることができる一方で、天候等に左右されやすいという欠点をもっており、造る地質や場所に制限があること、製作に労を要することなどの理由で、あまり多くは造られなかったようです。

菅野氏は、昭和二〇年代に作られたムジナ窯を利用して松炭などを生産しています。松炭は、火が点きやすく、ふいご（空気を送り込む道具）を使って火力調整が容易にできることから、昔から製鉄や鍛冶の炭として使用されました。当館でも菅野氏の炭を一部使用しています。

本展覧会では、この窯ならではの利点や苦労話、また、出来上がった炭などを中心に、ムジナ窯での炭焼きの様子を紹介しています。会期は六月十二日（日）まで。是非、足をお運びください。

（農家グループ 萩原）

## 上総・下総・安房の農家

### 二十八年度 農家の新規演目

上総・下総・安房の農家では平成二十八年度演目として、新たな演目の他に、体験内容を変更したものがありませんので、それらを紹介します。

### 緑の里親〜どんぐりを育てよう〜

房総のむらの林は、松や杉などの針葉樹の他にコナラ、クヌギなどの落葉樹で構成され、それらに伴って様々な動物やキノコ、草花などが共存し、豊かな自然環境を生み出し、いわゆる里山景観となっています。

しかし、松の木は、松くい虫による立ち枯れが目立つことから、昨年三月には生まれて二年・三年の松百七十本を館内に移植しました。

また、毎年沢山のどんぐりを付ける落葉樹も大きく伸びていますが、林の中に陽射



発芽したコナラ1 (3月20日 撮影：高さ約2cm)

しがあたらず、実生の木々も思うようには育っていません。

「緑の里親」とは、生まれたてのどんぐりの木(コナラ)を半年ほど自宅で管理・観察していただいた後、房総のむらに移植してもらおうという試みです。

皆様の参加をお待ちしています。  
第一回目(どんぐりを持ち帰る日)  
四月十二・十九日

第二回目(房総のむら内に移植する日)  
十一月十六日



発芽したコナラ2 (7月25日 撮影：高さ約8cm)

### 機織り製品

### ちよっとリニューアル

機織りでは、子どもでも二十分程で織ることのできるコースターの他、テーブルセンターやストールなど丸一日かかるものまで様々な織物を作ることができます。

草木染ストールには四十センチ幅の織り機を設定しました。また、花瓶敷きでは綾織り「星ガスリ」文様や網代織りも加える他、実演では「絹織」も予定するなどちよっぴりですが、リニューアルしました。

(農家グループ 藤崎)

## 風土記の丘資料館

### 歴史教室「拓本教室(基礎編)」

拓本は、千年以上前から中国で使われていました。日本には鎌倉時代頃に伝わったとされ、江戸時代には、書道の手本とするため、様々な石碑の拓本が採られたようです。このように歴史のある拓本ですが、現在でも歴史資料、特に考古資料の優れた記録方法として大いに用いられています。

当資料館では、この優れた技「拓本」を多くの方々に知って頂くため、昨年度より、まず「基礎編」として基本的知識と手法を取次資料を用いて習得するための教室を開催しました。

拓本には「湿拓」と「乾拓」があります。歴史資料などの記録に用いられる方法は、湿拓によるものです。

主な使用道具は、紙・墨・タンポです。紙は、中国で作られた「画仙紙」が良く使われます。墨は、ヒマシ油に松煙を混ぜた油墨が一般的です。タンポは墨を打ち込む



拓本と主な道具(画仙紙・墨・タンポ)

ときに使う道具で、綿を丸めて絹などの布で包み込んだモノを使います。



三角縁神獸鏡(複製)の拓本に挑戦!

道具がそろったところで、いよいよ拓本を始めます。手始めは、手頃な資料として縄文式土器片を使います。器面には縄文や沈線による幾何学模様が描かれており、水をしめらした画仙紙を丁寧に当てていくと器面の凸凹に紙が入り込み、紙面上に凸凹が現れます。そして、紙面が完全に乾く前に手早くタンポで墨を打ちます。すると真っ白な紙面が黒白で器面の複雑な文様を描写します。水墨画とは言い過ぎですが、白と黒で表現された文様が現れると参加者の皆さんは少なからず驚かれます。デジタル時代の今、アナログな描写が新鮮なのかもしれません。その後は、皆さん気に入った資料を次々と取り出し、中には複雑な文様の鏡に挑戦した方もおり、時間の許す限り拓本を採っていました。

平成二十八年度は、(初級)・(中級)と分けて教室を開催します。是非、興味のある方の参加をお待ちしています。

(風土記の丘資料館 野口)



# 平成二十八年度春期まつり情報 五感を通して楽しめるむらのまつり

## さくらまつり

四月二日（土）・三日（日）に「さくらまつり」を開催いたします。館内にはソメイヨシノをはじめ、ヤマザクラやシダレザクラなど約三百本の桜があり、まつり当日はちようどソメイヨシノが見頃を迎えると思われま

す。年に六回行われるまつりでは、テーマに合わせて特別イベントや体験を開催します。「さくらまつり」では、さまざまな技を披露する大道芸や、情緒溢れる箏の演奏などが、お花見を一層盛り上げます。

また、桜の花をかたどったかざぐるま作りや、桜色の和紙の葉書作り体験など、桜の季節にちなんだ演目のほか、気軽にできる楽しい演目がいっぱいです。

さらに、同日隣接の「ドラムの里」でも、



館内入り口の桜が皆様をお出迎えます

## 春のまつり

第十五回「栄町さくらまつり」が開催されますので、併せてお楽しみください。

四月最初の週末は、ご家族や友人と一緒に「房総のむら」で過ごしてみたいでしょうか。

五月三日（火・祝）から五日（木・祝）のゴールデンウィークには「春のまつり」を開催します。新緑に彩られた館内のおまつり広場では、鯉のぼりが勇壮に空を泳ぎます。

このまつりのテーマは「昔の遊びと暮らし」。竹馬、ベーゴマといった昔の遊び体験や、時代劇役者のような気分になれる「時代衣裳変身体験」、民俗芸能「登戸の神楽囃子（千葉市）」のほか、猿回し、手品、曲芸や軽業など、春のむらは楽しいイベントが目白押しですので、ぜひご来館ください。

（広報普及グループ 蒲生）



人気の時代衣裳変身体験

## まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。

平成二十八年四月二日から十一月二十七日までの土・日・祝日と八月十二日は、JR成田駅西口4番乗り場から、九時四十五分と十時十分は房総のむらへの臨時路線バスも運行いたしますので、公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設営、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。

## ◆編集後記◆

日中の日射しがすっかり暖くなり、春の訪れを祝うかのように、むらの各所では小鳥達が賑やかにさえずっています。

今年で房総のむらは三十周年を迎えます。その軌跡を写真で辿る「写真で見るむらの三十年」を六月十二日（日）から開催します。房総のむらの歴史を綴る企画を楽しみにして下さい。

（広報普及グループ 蒲生）

## 平成28年度 上半期のイベント

- 春のまつり  
平成28年5月3日（火・祝）～5日（木・祝）
- トピックス展「里山と林業—千葉の炭焼き—」  
平成28年3月12日（土）～6月12日（日）
- 房総座「柳家三三落語会」  
平成28年6月12日（日）
- むらの30周年企画「写真で見るむらの30年」  
平成28年6月18日（土）～7月10日（日）
- 「成田ニュータウン遺跡展—公津原のむかし—」  
第1期  
平成28年7月16日（土）～9月25日（日）
- むらの縁日・夕涼み  
平成28年8月6日（土）・7日（日）
- 稲穂まつり  
平成28年9月18日（日）・19日（月・祝）